

現代工芸美術界を代表する漆芸家。文化勲章受章。名誉市民。

高橋節郎 (たかはし せつろう)

南安曇郡北穂高村狐島 (現 安曇野市穂高) 出身
穂高町名誉町民 (現 安曇野市名誉市民)

<高橋節郎が活躍した時代> 1914 (大正3) 年~2007 (平成19) 年 享年 92 歳

大正3 昭和							平成					
5	7	15	37	40	51	53	57	2	7	9	15	19
穂高狐島にて誕生。	松本中学校を卒業。	展覧会に出展。受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。	選風一ひなげし展、出品、受賞を繰返す。



僕は安曇野で育った。子どもの頃の安曇野というのは、夜は漆黒の闇だった。手を伸ばせば星が手に届きそうなところに輝いていた。

鍔金という技法を駆使し、黒と金を基調に独自の漆芸術の世界を創り出した人物

たちは帰りを惜しみながら夕陽当たる水晶山を振り返り、振り返り帰る。名残惜しくてしょうがない、まだまだ遊びたい、でももう帰らなければいけないという時に、振り返り振り返り見たその水晶山が、夕陽を浴びてきらきらと光っていた。その輝きが今でも忘れられない。これが私の創作の原点です。」(日曜美術館インタビューより)

「星空円舞」1991年(平成3年) 「満天星花」1992年(平成4年)



漆屏風：1760×1730mm 漆屏風：1760×1730mm

信州の星空をじーっと眺めていると、その中に自分自身が吸い込まれていくような感じがする。すると、闇の中からいろいろな形が浮かび上がってくる。漆黒の天空に現れる、動物の姿、人物や妖怪。そんな少年時代のイメージが、私の作品のモチーフを生み出している。

(『安曇野高橋節郎記念美術館』より)

「神々の山」1998年(平成10年)



乾漆立体作品：770×380mm
通称 水晶山という山があった
子どもの頃 水晶を掘りにいった
あちこち掘ってはみたが
水晶は出なかった
夕暮れとなり 夕日にキラッと光るものを見た あれが水晶か・・・
明日はあそこを探そう

(『安曇野高橋節郎記念美術館』より)



「ひなげしの図」
1950年(昭和15年) 漆屏風



「バラとカラジウム」
1950年(昭和15年) 漆パネル



「豊松の島」
1993年(平成5年) 漆師盤



『安曇野高橋節郎記念美術館』に行ってみよう！

美術館では安曇野の自然、星空・山々・四季・古墳など、壮大かつ幻想的な作品を見ることが出来ます。漆作品、墨彩画、書など。高橋節郎生家もあります。

〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高 408 番地1 TEL 0263-81-3030 FAX 0263-82-0551

観覧料 高校・大学生(個人)300円・(団体)250円/一般 400円(個人)・350円(団体)

参考文献：「生誕百年高橋節郎展」「安曇野高橋節郎記念美術館」安曇野高橋節郎記念美術館 編集発行

「高橋節郎 漆 黒と金の物語」高橋節郎 著

「安曇野教育6号山根基世元 NHK アナウンサー講演会記録より」安曇野市教育会

参考HP 「高橋節郎美術館」 「安曇野市ゆかりの先人たち」 「安曇野アートライン北アルプスの麓」

